環境学習コーディネーターを活用した連携・協働取組の事例紹介　（Ｎｏ．23）

実施日	平成 28 年８月 30 日（火）
依頼者	一宮市役所　企画部　企画政策課
タイトル	「未来のクルマはここまできている！～自動走行実験見学会・学習会」

コーディネーターへの相談内容

〇依頼者の要望

愛知県産業労働部が一宮市で実施する自動走行実証実験にあわせ、一宮市企画部企画政策課では、自動走行の見学と学習会を予定している。学習内容は、「未来型自動車の現状及び将来について」であり、対象は子どもである。この企画にあった講師の紹介の依頼を受けた。

コーディネーターの対応

〇外部講師の紹介

【講師】株式会社自動車新聞社　代表取締役社長　井上佳三氏

自動走行実証実験の理解が深まるように、どのような仕組みで自動運転が可能なのかについて、わかりやすく説明できる講師を選定。未来型自動車の現状や、今後の展望について、未来型自動車に詳しく、大学の研究もサポートしている株式会社自動車新聞社を講師として紹介した。

〇学習内容の提案

＜講師に対して＞

・双方向コミュニケーションを取り入れた講座内容にすること
・対象が子どもであるため、わかりやすいようにイラスト、写真等ビジュアルを加えて説明をすること
・クイズや質疑応答を入れて、子どもの積極的な反応を促すこと
・自分事とするため、身近な生活に近いテーマや話題、事例を取り入れること
・自動走行車がなぜ必要なのか、また、そのメリット・デメリットを伝えること
・未来型自動車がなぜ環境負荷が少なく、環境にいいのかを伝えること
・「自分は何をすればよいのか」「自分には何ができるのか」について個人、ペア、グループ、全体で話し合う場や時間を持つこと
・未来の社会を想像し、どんな町、どんな環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合う時間を持つこと

＜依頼者に対して＞

・事前に資料を渡し学んできてもらうこと
・学習会の振り返りができるように、また、友達や家族と話し合いができるように、参加者に資料を配布すること
・空いている時間に見てもらえるパネルを置くこと

学習内容と当日の様子

＜内容＞

■自動運転技術と正しい認識の大切さについて

なぜ安全な車が必要なのか。事故を減らしていこうというのが自動運転のスタートである。自動車の事故を減らそうという技術が発達すると、助かる命が増える。交通事故を無くすために自動車に必要なことは、①予防安全（事故を起こさない）②衝突安全（事故が起きてもケガをしない、できるだけぶつからない、ダメージを少なくする）である。

■自動運転の効果について

自動運転が普及されることで、①交通事故の削減、②高齢者等の移動支援、③渋滞の解消・緩和、の効果が見込まれている。2025 年までに完全な自動運転ができるといわれている。

■まとめ

自動運転技術を搭載した自動車の市場化は、目前の状況である。しかし、いくら自動運転の技術が発達しても、それを使うのは人間である。人間であるユーザーに、正しい情報と正しい使い方を伝えることの重要性が高まっている。事故を減らすための技術開発ではあるが、技術に依存しすぎない共存関係がとても大切である。

【体験】

「ほんもの」にふれる→自動運転走行を見学する。

＜参加者数＞

児童：小学４～6 年生 33 名（保護者 28 名）

＜講座の結果＞

・講座の冒頭に、講師から「自動運転は車の事故を減らそうという技術である」と説明があった。事故を起こさない安全な自動車を作るために自動運転技術が開発され、自動運転のクルマが求められていること、自動運転のメリット・デメリットを知り、ユーザーである人間(自分)が責任をもつ必要性があることを伝えた。

・参加者からは、「自動走行にすべてを頼らないこと」、「機械に依存しないようにする」といった意見があり、また、「もっと色々な装置の意味を知りたい」、「未来の公道を知りたい」、「どのように自動運転の機能ができるのか知りたい」、「水素で走る自動運転車があるのか」、「一番技術が進んでいる国はどこか」などといった意見から、未来の移動手段や道路の在り方、自動車技術の進化について関心が深まったことが分かる。

・グループワークを行ったことで、「歩くときには車に注意して道路を渡ろうと思う」、「自動走行のクルマが広まったら、センサーの邪魔にならないように町をきれいにする」など、自動走行車に対する知識をもとに、どのようにすればより事故が防げるかを考えることができた。

・どんな未来にしたいのか、そのためには何をしたらよいかのワークを通して、「未来のクルマづくりをしたい」、「役に立つことを考えたい」、「大人になったら安全運転をする」、「いろんな実験を見る」、「応援する」、「環境を破壊しないクルマに乗る」、「安全で楽しめる車に乗りたい」など、未来の社会を想像し、どんな町でどんな環境だったら暮らしやすいかについて考えることができた。

・講座終了後、自動走行実験の見学を行い、参加者から、「本当に人が運転していないので、驚いた」、「自動運転について理解することができた」などのコメントが寄せられ、自動運転技術など搭載した自動車の登場を近くで感じることができた。

（講座の様子）

コーディネーターに対する感想

〇依頼者

・満足です。

・内容について、大人には好評でしたが子どもには少し難しかったようです。

〇外部講師

・大満足です。

・一般向けの講座ということで、内容を簡単にするのが難しかったが、新しいチャレンジになりました。

・体験型の講座ということで難しかったが、サポートしてもらえました。

・資料の提出が遅くなり、担当者には申し訳なかったです。

環境学習コーディネーターを活用した連携・協働取組の事例紹介　（Ｎｏ．24）

実施日	平成 28 年 11 月３日（木・祝）、５日（土）
依頼者	一宮市役所　環境部　環境保全課
タイトル	「想いでつなごう！おりがみアクション」

コーディネーターへの相談内容

○依頼者の要望

平成 25 年度から毎年、一宮市民対象の環境学習講座の企画の相談、講師紹介の依頼がある。今年度は、「生物多様性」をテーマとした環境学習講座及び併催イベントを行うことが既に決定しており、参加者が楽しく体験できる工作教室（工作したものは持ち帰れるもの）の講師と、生物多様性に関するパネル展示を行える団体の紹介を依頼された。

コーディネーターの対応

○外部講師の紹介

【講師】「想いでつなごう！おりがみアクション」事務局　河野香織氏

生物多様性の大切さを伝えつつ、参加型のワークショップや工作教室を実施できる NPO、団体、個人の中から、COP10 を契機に行われている「想いでつなごう！おりがみアクション」の事務局を講師として紹介した。

なお、会場に展示する生物多様性に関するパネルについては、借り受け先として、愛知県環境部自然環境課および中部地方環境事務所野生生物課を紹介した。

○学習内容の提案

＜講師に対して＞

・11 月 5 日に行われる生物多様性及びカメに関する環境講座との連携を考えた内容にすること
・環境講座につなげるために、おりがみで「カメ」を折ること
・参加者が身近に感じられるように、一宮市地域に生息する絶滅危惧種である「イタセンパラ」を折ること
・参加者が、「将来、どんな一宮市に住みたいか」を想像できる機会にすること
・参加者に「環境宣言」をおりがみに書いてもらい、共有する時間をつくること

＜依頼者に対して＞

・参加者が身近に感じられるように、一宮市地域に生息する絶滅危惧種「イタセンパラ」を題材とすること
・「イタセンパラ」のパネルを展示し、イタセンパラの紹介と、生息している環境の状況を伝えること
・参加者が持ち帰ることのできる資料を準備すること
・一宮市職員が「イタセンパラ」「カメ」をおりがみで折れるようにすること

学習内容と当日の様子

＜内容＞

・「イタセンパラ」と「カメ」を折りながら、生物多様性について説明をする。
・一宮市周辺に生息する絶滅危惧種であるイタセンパラに関する展示をし、説明を行う（クリアファイルを配布する）。
・折ったおりがみに生物多様性に対するメッセージを書き、掲示する。
・掲示されたメッセージを共有する。

＜参加者数＞

20 名

＜講座の結果＞

・一般公開のプログラムのため、通りかかる人を対象に実施した。11 月 5 日(土)に行われる環境講座のテーマである「カメ」と、一宮市周辺に生息している絶熱危惧種の「イタセンパラ」をおりがみで折ることを通して、カメやイタセンパラの特徴及び、生息している環境を伝えることができた。

・命のつながり、生物多様性の大切さを参加者と共有することができた。

・参加者のアンケートから、「一宮にイタセンパラという絶滅危惧種がいることを初めて知った」、「私たちの生活の影響の大きさを知った」などのコメントを得た。また、「折り紙が好きだから」、「卓球に来ていたが、折り紙や展示が良かったから立ち寄った」とのコメントもあった。

・今回のプログラムは、イベントとして実施したため、日々の暮らしの中で、「カメ」や「イタセンパラ」について知る機会がほとんどない人や、環境に関心のない人（おりがみに関心のある人）を対象に生物や生物多様性の大切さについて伝えることができた。

・参加者は、おりがみを折りながら、生物多様性を守るためにできることを考える時間を持つことができた。

・参加者が書いたメッセージには、「節電・節水を心がける」、「ゴミを川に捨てない」、「ごはんを残さない」、「マメに電気を消す」、「水を大切にする」、「ポイ捨てをしない」、「1 日 53 グラムのゴミを減らす」、「4R を守る」という内容があり、おりがみを通して自分の生活を見直す学習の場となった。

（講座の様子）

コーディネーターに対する感想

〇依頼者

・「子ども環境週間～エコフェス～」中に体験コーナーを実施したいと伝えたところ、開催主旨にあった企画提案と講師を紹介していただきました。

・体験コーナーを実施するにあたり、講師とともに打合せをできました。

・講師との詳細打合せができ、プログラム（体験コーナーの進め方）をスムーズに行えました。

・イベントの開催主旨を理解していただき、講師紹介だけでなく、開催期間中に現場確認をしていただきました。

〇外部講師

・大変満足です。

・沢山の方に生物多様性について考えていただく機会を作って頂き、国際自然保護連合（IUCN）からも感謝され大変喜ばれました。